

2014年9月25日

マツダ財団 2014 年度の研究助成を決定 －科学技術振興と青少年健全育成に関する研究助成 及び 4 件の選考委員奨励賞(科学技術振興関係)を決定－

公益財団法人マツダ財団(理事長 金井誠太)は、2014 年度の研究助成を決定しました。

今年度は、全国の大学・研究機関などから、過去最高となる 437 件の応募があり、その中から「科学技術振興関係」として 25 件に助成金額 3,200 万円を、また「青少年健全育成関係」として 5 件に助成金額 400 万円の研究助成を決定しました。合計では、30 件、総額 3,600 万円となり、昨年度よりも 400 万円の増額となりました。

また、財団設立 30 周年を記念し、本年度より「マツダ研究助成選考委員奨励賞」(科学技術振興関係)を授与することとしました。これは、科学技術振興関係の助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした 4 件の研究に対し、マツダ研究助成選考委員奨励賞を授与し、副賞として研究助成金 50 万円を追加助成するものです。

今年度の研究助成は次の通りです。

1. 科学技術振興関係の研究助成は、科学技術の発展に寄与する優れた 25 件の研究に決定しました。助成金額は 3,200 万円です。マツダ財団では従来から、次世代を担う若手研究者および未来をひらく芽となる萌芽的研究を優先して助成を行っており、今回の 40 歳以下の若手研究者への助成割合は、92%(前年度 72%)となりました。
マツダ財団が重点をおく「循環・省資源に貢献する研究」としては、今後の水素エネルギー利用技術を支える新たな水素分離膜の作製・評価に取り組む「アニオンドープにより Si 員環構造を制御した新規水素分離膜の創製」(広島大学)などが選ばれています。
また、今回新設の「マツダ研究助成選考委員奨励賞」では、社会への貢献が大いに期待されるテーマであるとして、医工連携による「マイクロ流体デバイスの新規動作原理と微量血液分析デバイスの研究」(山梨大学)などが選ばれました。
2. 青少年健全育成の研究助成では、助成 5 件、助成金額は 400 万円です。青少年の健全育成にかかわる実践的な研究の中でも特に社会的必要度、要請度の高いと認められる研究を、助成対象としています。
今回は、「小規模グループケアにおける職員の人材育成モデルの構築」(広島国際大学)といった、児童福祉施設等での実践的な貢献が期待される研究や、「対人不安症状に対する複数のヒト型ロボットを用いた集団療法」(福井大学)といった、ロボットを用いて発達障害などの対人コミュニケーション治療プログラム作成に取り組む先進的な研究など、現代の社会的課題を踏まえつつ、様々な状況に置かれた青少年を想定した多様な研究が選ばれています。

なお、2015 年度青少年健全育成のための市民活動支援については、10 月から広島、山口両県で募集を開始します。

マツダ財団は、科学技術の振興と青少年健全育成のための助成などを行うことにより、世界の人々が共に繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与することを目的として、1984 年に

発足しました。本年 10 月 26 日で、設立 30 周年を迎えます。これまでの助成実績は今回を含め合計 1,866 件、15 億 2,080 万円となりました。

今後一層、公益財団法人としての使命を果たし、社会のお役に立てるよう、マツダ財団はこれからも更なる社会貢献に取り組んでまいります。

以 上

第 30 回(2014 年度)マツダ研究助成一覧

マツダ財団ホームページ: <http://mzaidan.mazda.co.jp/>

【科学技術振興関係】

助成金額は一律 120 万円。但し、「マツダ研究助成選考委員奨励賞」に選出されたものは、50 万円の追加助成。

		◇印は循環・省資源に係わる研究	◆印は「マツダ研究助成選考委員奨励賞」対象者		
地 域	研 究 題 目			研究代 表 者(役職は応募時)	助成 金額 (万円)
宮城県	大気圧プラズマにおけるガス加熱現象の解明と反応シミュレーションモデルの確立	◇		コムロ アツシ 小室 淳史 東北大学大学院工学研究科助教	120
宮城県	ITO 代替・透明導電性酸化物(TCO)ナノ粒子の液相合成とインク化	◇		ムラマツ アツシ 村松 淳司 東北大学多元物質科学研究所教授	120
山形県	ダイヤモンド状炭素(DLC)膜の大気圧局所的コーティングを実現する新規プラズマ・ペンの開発	◇		ヨシキ ヒロユキ 吉木 宏之 鶴岡工業高等専門学校教授	120
茨城県	世界最小を目指した小児用人工心臓のための超小型ダブルステータ5軸制御磁気浮上モータの研究開発			オサ マサヒロ 長 真啓 茨城大学工学部助教	120
埼玉県	350℃耐熱！初めて『結晶』で創る新奇フレキシブル透明プラスチックフィルムの開発に資する、高分子透明化技術の新提案	◇		フジモリ アツヒロ 藤森 厚裕 埼玉大学大学院理工学研究科准教授	◆170
千葉県	構造制御されたホウ素含有グラフェンの合成と解析	◇		ヤマダ ヤスヒロ 山田 泰弘 千葉大学工学研究科助教	120
東京都	発光材料としての「イガグリ状」シリコンマイクロ粒子のフルカラー発光化・高輝度化・長寿命化	◇		イナサワ ススム 稲澤 晋 東京農工大学大学院工学研究科准教授	120
東京都	皮膚を有する骨格筋アクチュエータの構築			モリモト ユウヤ 森本 雄矢 東京大学生産技術研究所助教	120
神奈川県	レアアース磁石を用いない使い捨て磁気浮上遠心血液ポンプ用ベアリングレスモータの研究	◇		ヒジカタ ワタル 土方 亘 東京工業大学精密工学研究所助教	120
石川県	ソフト化学プロセスによる単原子層デバイスの形成と超高機能性の実証			カワエ タケシ 川江 健 金沢大学理工研究域准教授	120
山梨県	マイクロ流体デバイスの新規動作原理と微量血液分析デバイスの研究			ウキタ ヨシアキ 浮田 芳昭 山梨大学大学院医学工学総合研究部助教	◆170
愛知県	随意性眼球運動と不随意性眼球運動の比較による眼球運動の意図に関する生体信号解析			フナセ アラオ 船瀬 新王 名古屋工業大学大学院工学研究科助教	120
京都府	らせん状多糖によるハイブリッド包接超分子マテリアルの開発	◇		タナカ トモナリ 田中 知成 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科助教	120
大阪府	高周波磁気抵抗素子を用いた磁場センサーの研究			ミワ シンジ 三輪 真嗣 大阪大学基礎工学研究科助教	◆170
兵庫県	次世代二次電池用電解質のための超分子イオン液体ゲルの開発	◇		マルヤマ タツオ 丸山 達生 神戸大学大学院工学研究科准教授	120

地域	研究題目	研究代表者(役職は応募時)	助成金額(万円)
奈良県	分子配線を指向した光応答性自己集積材料の開発	ナカシマ タクヤ 中嶋 琢也 奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科准教授	120
奈良県	FPGA アクセラレータの性能と開発容易性を両立するマルチパラダイム設計フレームワーク	タカマエダ シンヤ 高前田 伸也 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科助教	120
岡山県	波長選択性光吸収メタマテリアルを用いた高効率放射冷却	◇ イシカワ アツシ 石川 篤 岡山大学大学院自然科学研究科助教	120
広島県	アニオンドープにより Si 員環構造を制御した新規水素分離膜の創製	カネザシ マサコト 金指 正言 広島大学大学院工学研究院助教	120
広島県	その場観察法を用いたレーザー溶接の凝固割れ感受性評価法の確立と凝固割れ発生防止技術の開発	カドイ コウタ 門井 浩太 広島大学大学院工学研究院助教	120
山口県	多重リレー協調通信における最適パケット分割と適応変調を用いた高速・高品質化に関する研究	◇ イダ ユウタ 井田 悠太 山口大学大学院理工学研究科助教	◆170
福岡県	アルカリ土類フェライト超微粒子の創製と微細構造制御及びナノコンポジット光触媒材料への応用	オハタ ケンジ 小畑 賢次 北九州工業高等専門学校准教授	120
福岡県	アナログ集積回路(IC)の“検証”に着目した技術者教育手法に関する研究	イシカワ ヨウヘイ 石川 洋平 有明工業高等専門学校准教授	120
福岡県	超伝導材料・線材開発のキーテクノロジーとなるハイブリッド顕微法の確立	◇ ヒガシカワ コウヘイ 東川 甲平 九州大学大学院システム情報科学研究院 准教授	120
宮崎県	スピーチプライバシー保護システムのブートストラップを利用したオンラインマスク合成法	コバヤシ ヨウスケ 小林 洋介 都城工業高等専門学校助教	120
科学技術振興関係 計 25 件		助成金総額(万円)	3,200

「マツダ研究助成選考委員奨励賞」(科学技術振興関係)一覧

研究代表者(役職は応募時)	研究題目
ウキタ ヨシアキ 浮田 芳昭 山梨大学大学院医学工学総合研究部助教	マイクロ流体デバイスの新規動作原理と微量血液分析デバイスの研究
選考理由	本研究は、流体の自己制御性を利用することで安価に血液分析デバイスを実現するものである。これは、超小型・安価・高精度な微量血液分析デバイスであり、従来の血液分析では血球分離、免疫反応、反応器洗浄、酵素反応と、何度もピペットによる操作が必要であったが、これらを自動的に分析できるシステムが実現できる。研究構想も論理的で、実現に向けた計画も具体性が高い。この技術が完成した際の適応範囲の広さや社会貢献度は群を抜いていると考えられ、この研究を奨励賞とする。
イダ ユウタ 井田 悠太 山口大学大学院理工学研究科助教	多重リレー協調通信における最適パケット分割と適応変調を用いた高速・高品質化に関する研究
選考理由	本研究は、近年の通信の大容量データ化と高速・高品質を両立するための通信技術の高度化が求められている中、複数の中継局を利用した協調通信における負荷を最小にし、高速化を実現する新しい方式を提案するものである。将来の社会的な貢献が期待できる研究であるため、ここに奨励賞を贈呈する。

「マツダ研究助成選考委員奨励賞」(科学技術振興関係)一覧 つづき

研究代表者(役職は応募時)	研究題目
フジモリ アツヒロ 藤森 厚裕 埼玉大学大学院理工学研究科准教授	350℃耐熱！初めて『結晶』で創る新奇フレキシブル透明プラスチックフィルムの開発に資する、高分子透明化技術の新提案
選考理由	本研究は、耐熱性に優れるプラスチック光伝送体を、世界で初めて「高密度非晶」形成に基づき、300℃耐熱の「結晶性」分子フレキシブル透明材創出により開発するものである。本研究により、燃費・安全性向上に繋がる車体軽量化に資する耐熱性光ファイバ構築も現実化する可能性がある。加えて、自動車はもとより、工業製品の多くの領域に展開可能な技術であり、大きなブレークスルーが期待できる夢のある研究である。よって、奨励賞に値する。
ミワ シンジ 三輪 真嗣 大阪大学基礎工学研究科助教	高周波磁気抵抗素子を用いた磁場センサーの研究
選考理由	本研究は、世界的にも電子の電荷と同時にスピンの自由度を利用するスピントロニクスに大きな期待が寄せられている中、従来の線形現象と異なり、非線形現象を採用した独創的な高周波磁気抵抗素子による高感度磁場センサーの研究を行うものである。この研究から得られる成果は生体内現象の解明、医療等の広範囲の分野に波及する可能性があり、将来の社会的な貢献が期待できる研究であるため、ここに奨励賞を贈呈する。
計 4 件	

【青少年健全育成関係】

地域	研究題目	研究代表者(役職は応募時)	助成金額(万円)
神奈川県	子どもの成長発達とソーシャル・キャピタルの関係に関する実証研究	ヤマシタ ジュン 山下 絢 日本女子大学人間社会学部専任講師	80
福井県	対人不安症状に対する複数のヒト型ロボットを用いた集団療法	クマザキ ヒロカズ 熊崎 博一 福井大学子どものこころの発達研究センター 特命助教	90
大阪府	発達障害を有する子どもの食行動の困難と健康・発達支援に関する研究	タベ アヤコ 田部 絢子 大阪体育大学健康福祉学部専任講師	70
広島県	小規模グループケアにおける職員の人材育成モデルの構築	オカモト ハルミ 岡本 晴美 広島国際大学医療福祉学部准教授	70
長崎県	他者への親切行為が青少年の精神的健康および生活の質に及ぼす影響の実証的検証	マエハラ ユキオ 前原 由喜夫 長崎大学教育学部准教授	90
青少年健全育成関係		計 5 件	助成金総額(万円) 400